

市長と語る タウンミーティング  
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年7月3日（火） 午後7時～8時30分  
会 場 武蔵野分館（武蔵野町会）  
天 気 雨

参加者 50人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

◆本庁舎の建設はいつ行われたのか。

☆昭和47年建設である。

◆避難所の責任者は誰になるのか。

☆市内には20箇所の指定避難所があり、地域防災拠点として位置付けている。

鍵は学校側と市の指定職員（6～7人）の班長が持っており、これらにより避難所開設の初動にあたる。

◆がれきの処理に対してふじみ野市の対応はどうなっているのか。

☆個人的には受け入れをしたい気持ちはあるが、焼却灰の処理ができないと条件的に難しい状況となっており、実態としては山形県と長野県で処理をしている。手を挙げたが条件が整わなければ受け入れはできないということである。

◆この地域の避難場所として文京大学や、西原小、西中が上げられるが、関越を境にして避難所が別れており、西原小の前に住んでいるのに西中まで行くような状況になっているので、どうにか見直しをして欲しい。

☆今後、地域の皆さんのご意見を伺いながら見直しを図って行くと思うが、今お話された関越自動車道自体の安全性についても検証する必要があると思う。

◆地域としては文京を活用させてもらいたいですが、そうはなっていない。

☆避難場所にはなっているが、市の防災拠点という位置付けである指定避難場所ということではない。しかし、他にも大規模量販店やスーパーなどと災害協定を結んでいるので食糧等の面についても支援が得られると考えている。

避難場所のことについて、是非、皆さんにお願いしたいことがある。災害はいつ起こるか分からない。朝なのか夕方なのか明け方なのか、また、夏なのか冬なのか、平日なのか休日なのか。その時々に応じて身の安全を確保できる場所が必ずしも指定避難場所とは限らないということである。何が何でも一目散に避難場所を目指すことがかえって危険なこともあるので、まずは身近で一番安全を確保できる場所に身を移してもらいたい。そしてその次の段階で避難場所へ移るという意識で良いと考えている。身を守る安全な場所が近くの公園かもしれないし、畑や空き地かもしれないが、普段からこのような意識を高めておいていただきたい。そして、地域の会合等においてこの話を繰り返し皆さん

に伝えてもらいたい。指定避難場所については皆さんのご意見を伺い見直しを図っていききたい。

町会の組織率が低いのが現状であり、若者はメリットがないとして入会しない傾向があるが、地域の助け合いや絆が声高に叫ばれている中、皆さんの力で地域力を高めていってほしい。

- ◆関越道付近の道路にひびが多く入っているので心配。調べて欲しい。
- ☆日曜日のタウンミーティングでも水道タンクの傾きを指摘され、すぐに調べてみたが問題は無く安心した経緯があるので、道路のことなど何でも地域の事で気づいた点があればご指摘いただきたい。
- ◆備蓄倉庫の中身について教えて欲しい。何人ぐらいへの対応をしているのか。
- ☆東側と西側の中身についてアンバランスな面が生じているので、ここ3年間をかけて倉庫の中身の充実を図りつつ均衡も保つよう努めていきたい。人口増加にも対処するため増量も図っていく。パンについてはアレルギー対応のものに切り替えていき、あったか毛布の数についても学校に数多く充実を図っていききたい。現在の備蓄内容は、パンの缶詰は23,000食でほぼ充足されている状況、飲料水袋が2,600枚、毛布12,000目標のところ現状では6,000枚、簡易トイレは228基が目標だが226基を確保、粉ミルクも充足している状態です。食糧については一日2食を基本として市で一日分、県で一日分、そしてもう一日分は皆さんのご家庭でストックされている食糧を充てさせてもらい三日間を凌ぐという計画になっている。三日目以降は他からの支援を受け入れる。
- ◆西地区と東地区の飲料水に関する確保のバランスは。農業地区にある井戸などの活用もできるのではないか。
- ☆今後、揚水組合とも協定を結んでいこうと考えており、7月末に現実化する予定である。井戸などについては、浄化の方法を含めてどうしたら飲料水として活用できるのか研究していききたい。西ノ原中央公園のところの井戸について、大変水質が良くそのまま飲料水にも使えるほどだと聞いている。3.11の際、西地域のマンションでは停電による断水が生じたこともあり、それをきっかけとして、現在は町会加入の動きも見えてきている。井戸については、東地域に比べ西地域の方が少ないので、大井中に井戸を掘っていこうとしている。即、飲み水に使えるかどうか分からないが、今後、西地域に井戸を増やして行こうという計画になっている。
- ◆水源地から水道に引っ張っている管について、石綿管を使用していると思うので、改善を図って欲しい。
- ☆対処していききたい。それと、本市においては、災害協定を締結している自治体は他県にあり、山梨県の甲斐市、長野県の飯田市、栃木県の日光市、と既に協力関係にある。今後は、群馬県の安中市と更に協定を結んでいく予定である。私がメンバーになっている全国青年市長会の42名の同士とも応援態勢がとれるものと考えている。

- ◆電気の供給について、各避難場所に自家発電装置を付けるなどの方法が有効と考えるがいかがか。
- ☆すべての避難所や公共施設に設置するのは難しいものとする。恐らく、非常時はランタンや懐中電灯での対応になってしまうかもしれない。
- ◆災害時にできてしまった道路の陥没や亀裂について、この西原住宅地区は私道が多いのだが、自分たちで直すことになるのか。
- ☆私道であっても大きな被害に及んだ時には、行政で対応することになるであろう。
- ◆道路の寄付採納はだめか。
- ☆個人の持ち分などの関係があり、権利者全員で同意が図られなければ難しいのではないか。一人でも反対者がいたらできない。ふじみ野市は全域にわたりまだまだ私道が多い。
- ◆清掃センターの跡地利用はどうなっているのか。
- ☆土壌調査後、億単位の費用を要して建物の解体を行うが、更地のままだと合併特例債が使えないので、スポーツエリアであるということ踏まえた中で有効な利用方法を今検討している最中である。ふじみ野市は借地がたくさんあるので、その辺を視野に入れ有効な土地利用を考えていきたい。
- ◆各地域で場所を持ち回ってスポーツ大会など行っているが、大井の体育館は町規模の体育館であるため、大きな大会になると手狭で対応がしにくい。他市のようにもう少し大きな規模のものにならないか検討して欲しい。
- ☆西地域には単独の体育館があり東地域に比べるとまだ状況は良いほうだと思う。公共施設は一回建ててしまうと、その後における維持管理が大変である。
- ◆簡易消火栓について状態を調べてもらったら、ホースがボロボロで機能しないことが分かった。
- ☆管理者がまちまちであるが、市域全体でその辺も含めて調査している。
- ◆災害時の学校対応はどんなルールでやっているのか。3.11の際に孫は学校から帰されて一人で自宅に居た。とても不安で寂しい思いをした。
- ☆3.11の後に教育委員会で統一を図り、「保護者への直接の引き渡し」を原則としたので、今後においてそのようなことは無いと思う。
- ◆関越のトンネルの中で児童が奇声を上げて騒いでいる。近所迷惑でかなりな騒音になっている。
- ☆早速学校側にお伝えし、指導に当たってもらう。
- ◆震災時の火事などのときなど、初期消火は市民で当たるものなのか。
- ☆町会・自治会連合会の防災部長をこの町会長である柿沼会長にやっていただいているが、この方達が市内20箇所ある地域防災拠点へ避難所を開設するという役割を担っている。地域防災拠点（地区対策本部）は共助の核である。自主防災組織が中心となり初期消火などに当たってもらう。7/30には地域の図上訓練を予定しており、各小学校単位で実際の行動パターンについて検証を行う。

併せて、12/2は総合防災訓練で実際に避難所を開設してみようという流れになっている。これらを体験していただくことにより、防災に強いまちづくりを皆さんに意識してもらいたい。